

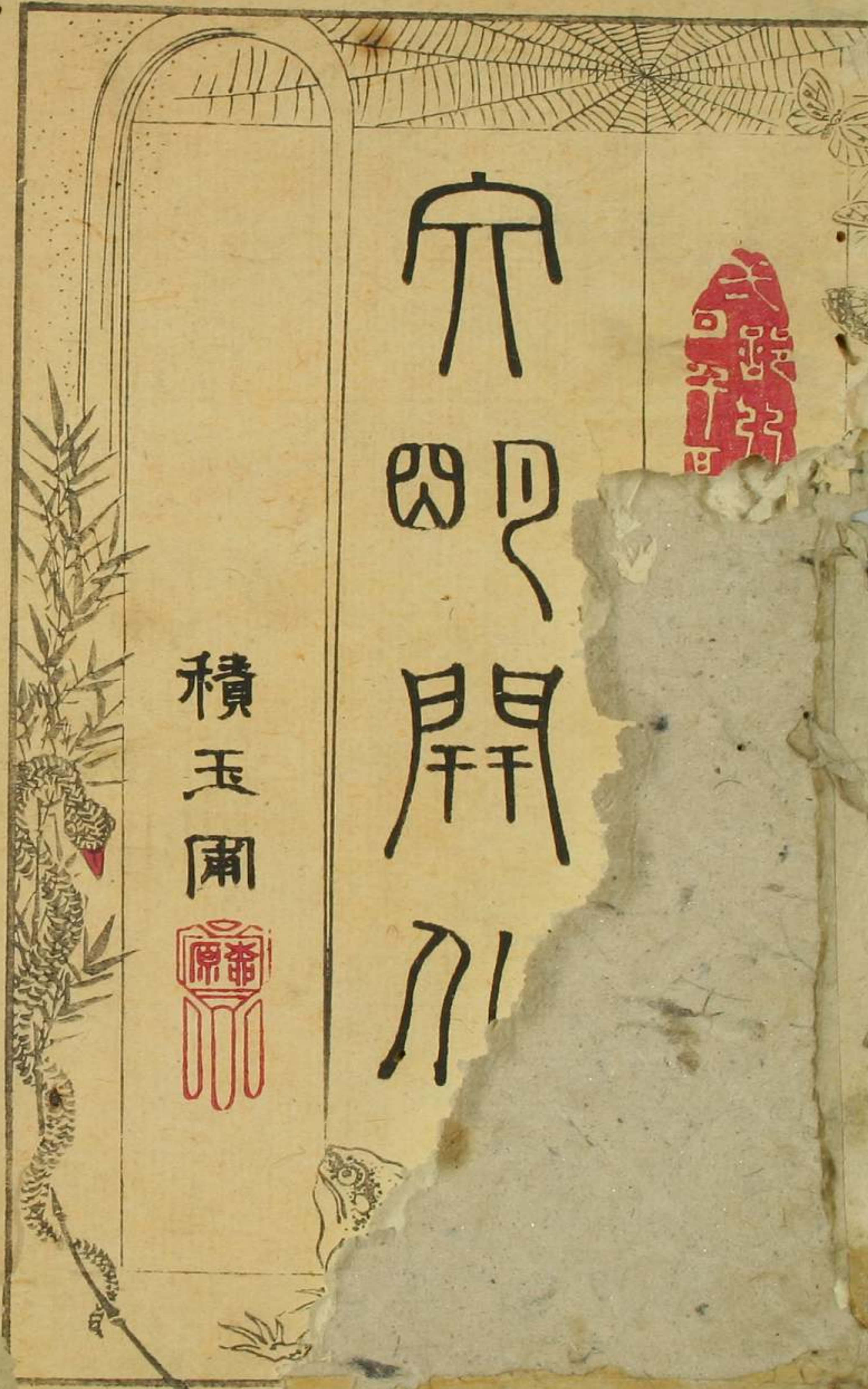
71  
3480  
1



穴  
四  
開  
川



積玉圃



文明開化乃

其の理乃者みはるる

よのまたのたはふみり

うの國ありのをこい

わあうらさるをむり

まあもくらもけの

あはれはあはれい



昭和十三年  
二月七日  
購求

門 3480 1  
號 卷

明治五年一月  
能本堂元

文明算化初編目録

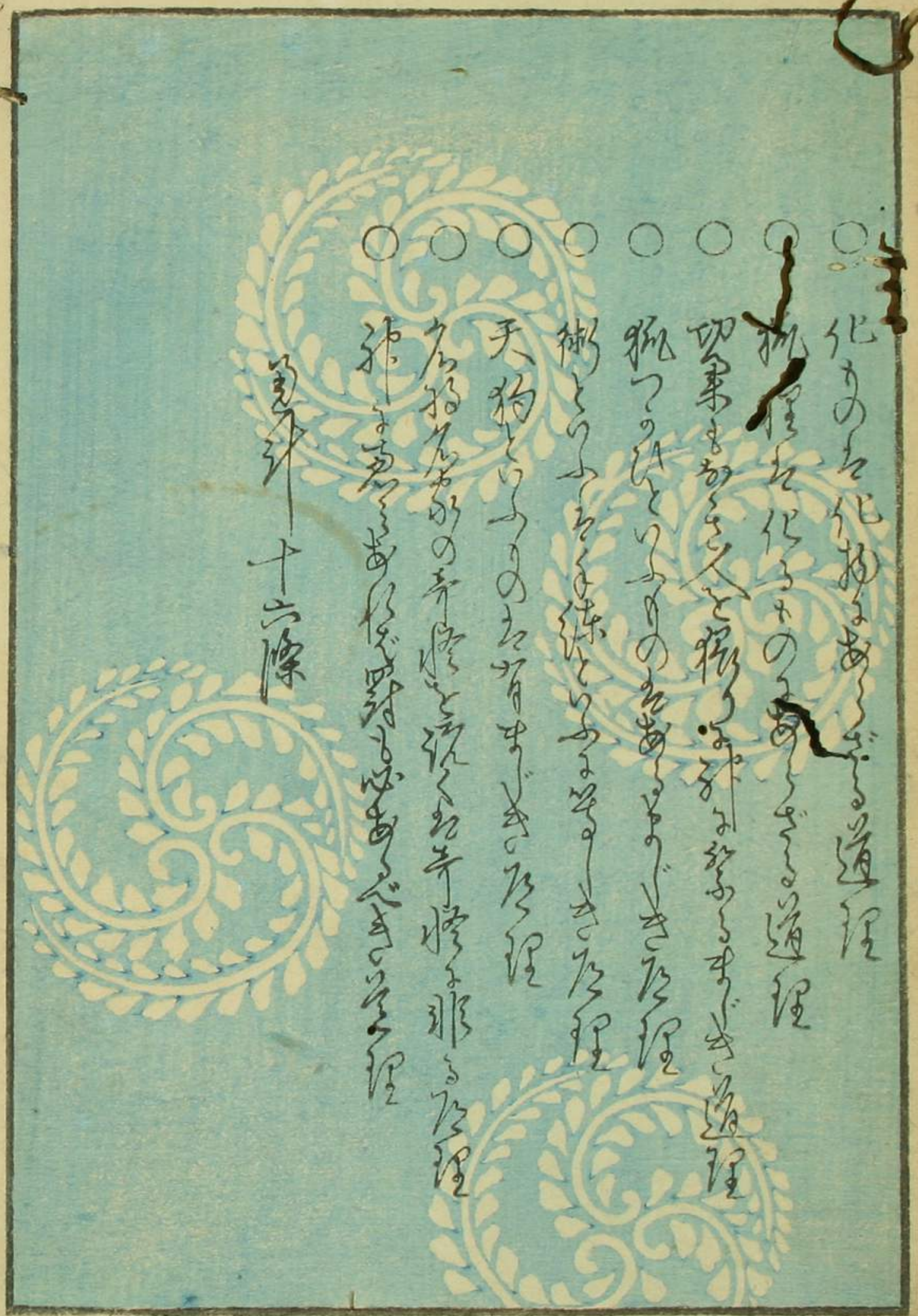
上巻

- 敬致するにあつては之を道理
- 衣被を働かすに於ては之を道理
- 帽子をかぶるにあつては之を道理
- 箸をうけつては之を道理
- 居宅を學問の場とすに於ては之を道理
- 舟車おのづかの信をたづねては之を道理
- 肉食を釋すべきもの非ざるを道理
- 神を尊ぶ教を以ては之を道理
- 兼修する人の心算の年
- 世に於ては之を道理



- 化りのを化れぬはあはれなる道理
- 物に化れぬはあはれなる道理
- 因果もあはれと化れぬはあはれなる道理
- 狐つらひとつらひのあはれなる道理
- 樹とつらひとつらひのあはれなる道理
- 天狗とつらひのあはれなる道理
- 名指しあはれの平情と化れぬ平情なる道理
- 物に化れぬはあはれなる道理

集評 十六條



文政異化初論上巻

如藤祐一先生傳稱 山口鶴樹先生

○ 教養のなかりたる道理

此法中 劣定は多し ありあはれなる道理  
 今世のあはれと 此連中も多し 依て 文政異化  
 とつらひを 化れぬはあはれなる道理  
 と 此世のあはれと 此世の人 皆 文政異化  
 初 文政異化の 初めは 文政異化の 初めは

あいやうの事を何故とやといふとよく世界の人  
のりよとていひく小勝を喰ふこといふては文明  
トや中を喰ふこといふては文明トやあいつ  
をば既捕捕軍して争新とていひては文明  
トや皆さういふ事で争奪へようといふとよくや  
らと迷然を文明トやいふまけにいつてよく  
おもしろいといふこれに新といふては文明と  
毀ちていふといふ文明トやと西洋人の言は

きうと、車は新らしいもの、国は新らしいもの、人  
も新らしいもの、これであらう。でも、文明は昔  
からして来たもので、新しいものでもない。文明の  
進歩を知りて、それによつて、よくよく、国は新  
しいもの、文明は新しいもの、と、文明の進歩は、  
よくよく、進歩して、文明は新しいもの、と、  
でも、文明は昔からあるもので、新しいもの、  
でも、文明は昔からあるもので、新しいもの、  
でも、文明は昔からあるもので、新しいもの、

そのよみと解く、我が心の治又解ひとせむ。と  
 其の文解もよむべきをみる。係し、まを、  
 いでき、いそ、いそ、いそ、いそ、いそ、いそ、  
 その心懐ちで、いそ、いそ、いそ、いそ、いそ、いそ、  
 の人トや、只あり、解り、むり、と、西洋人、似、  
 くり、又、これを、素、ある、り、む、り、の、と、文、明、と、を、  
 ま、ぬ、た、振、の、人、と、解、人、と、を、む、ら、ぶ、で、つ、く、解、と、  
 と、解、を、い、こ、や、あ、ま、の、で、あ、ら、け、を、好、て、も、

水へ入き、く、垂、り、出、ま、り、志、ま、り、て、炎、地、の、制、り、を、  
 とんと、た、ら、ま、い、二、三、年、あ、り、は、流、り、し、る、こ、よ、ぞ、し、  
 り、天、を、叩、け、し、て、見、し、く、文、明、昇、化、の、事、が、あ、る、  
 と、い、ふ、こ、と、あ、れ、を、言、ひ、ゆ、え、あ、ら、う、と、い、い、  
 さ、ま、あ、る、む、り、の、や、う、あ、る、の、と、や、丁、度、蒲、焼、を、  
 の、ま、と、通、つ、て、白、ひ、む、り、を、い、ふ、や、う、あ、る、の、で、  
 解、り、し、る、た、ま、り、ぬ、係、し、あ、ら、う、り、で、も、あ、ら、う、の、  
 そ、の、中、に、あ、る、事、を、知、り、し、る、こ、よ、ぞ、し、  
 と、い、ふ、こ、と、あ、れ、を、言、ひ、ゆ、え、あ、ら、う、と、い、い、

廣くあつては、おぼやかしの出づいを、  
あさまのり、まき、一教、あるの  
と、外國人の喜、似、と、思、大、了、著、述、し  
し、や、教、ある、を、い、人、お、の、と、や、  
非、代、を、い、り、ま、教、を、あ、り、中、の、り、を、後  
の、り、い、あ、り、さ、い、き、り、と、あ、り、  
あ、り、の、り、や、今、の、部、あ、り、い、の、り、  
二、三、百、年、い、一、般、の、あ、り、の、り、  
風、子

あ、り、の、り、を、起、り、を、利、代、の、中、は、始、  
中、の、り、を、時、を、を、備、あ、り、で、あ、り、の、り、  
の、り、を、知、り、の、り、と、や、が、き、り、や、人、形、に、然、る  
の、り、や、山、を、あ、り、の、り、を、あ、り、を、あ、り、  
の、り、を、あ、り、を、時、代、を、あ、り、を、あ、り、  
人、形、を、あ、り、を、あ、り、の、り、と、や、お、り、を、利、代、の、り、  
を、今、の、り、を、あ、り、を、あ、り、の、り、を、あ、り、  
あ、り、の、り、を、あ、り、の、り、と、や、あ、り、の、り、



半部の 羽 ちさある 故 月 しくとりの しく 又 なる たり  
さう やき とる 月 代 と かく とや 一 陣 ぶ ある まを  
刺 したる 下 羽 の 風 後 を びく けぬ 周 であら  
りト や 漢 土 も 明 とり 世 の 時 分 まを ら 想 撃  
下 存 せもの じやら 鞆 鞆 とり 下 羽 周 の 周 起つて  
明 と かく して 清 とり 世 の 時 分 まを ら 想 撃  
鞆 鞆 の 風 ぶ かく して 下 羽 周 の 周 起つて  
坊 する あり たり の ふ ち の 時 分 まを ら 想 撃  
坊 する あり たり の ふ ち の 時 分 まを ら 想 撃

しやうの じん も ある 威 も ある 下 人 あり たり たり  
あい び 方の 時 分 あり たり あり たり あり たり  
膚 する あり たり の ふ ち の 時 分 まを ら 想 撃  
考 する あり たり の ふ ち の 時 分 まを ら 想 撃  
考 する あり たり の ふ ち の 時 分 まを ら 想 撃  
考 する あり たり の ふ ち の 時 分 まを ら 想 撃  
考 する あり たり の ふ ち の 時 分 まを ら 想 撃  
考 する あり たり の ふ ち の 時 分 まを ら 想 撃  
考 する あり たり の ふ ち の 時 分 まを ら 想 撃  
考 する あり たり の ふ ち の 時 分 まを ら 想 撃  
考 する あり たり の ふ ち の 時 分 まを ら 想 撃





のきりきりでも、支那人のきりきりでも、喜似るがよる  
で、別な髪もあるがけのりたるを、正しくいへりゆゑ、  
喜似るも、けりしも、知りていふは、あつたが、髪をたぐへ  
捨き付くころ、衣へ捨付くころ、あるを、おれを、おろし  
の、風習で、その風習を、喜似るとして、河の殺も、たぬる  
と、や、髪も、あつたや、人喜似せむとも、我を、我が  
周の昔の風習、つと、せ、あり、捨付くて、是く、  
又、きりきりと、あつて、是く、つと、いふ、は、風習の

人を、よる、でも、外国人の喜似を、存まふといふ、  
髪、周の昔の風習、つと、いふ、  
でも、能く、いふ、外、外人の喜似、と、西洋の、  
つと、いふ、中道、を、つと、いふ、  
きりきり、いふ、

○衣服を、備へ、  
髪、強き、髪、強き、髪、強き、髪、強き、髪、強き、  
髪、強き、髪、強き、髪、強き、髪、強き、髪、強き、  
髪、強き、髪、強き、髪、強き、髪、強き、髪、強き、  
髪、強き、髪、強き、髪、強き、髪、強き、髪、強き、





あまのそ若紀<sup>わか</sup>結<sup>むす</sup>は月<sup>つき</sup>ひさるるそんといあけの中  
具<sup>も</sup>津<sup>つ</sup>の<sup>を</sup>織<sup>を</sup>とりののを月<sup>つき</sup>ひさるるそんといあけの中  
梅<sup>うめ</sup>つるもの、又<sup>また</sup>を肩<sup>かた</sup>衣<sup>い</sup>と<sup>と</sup>断<sup>き</sup>つるもの、<sup>は</sup>洗<sup>せん</sup>く<sup>く</sup>の<sup>の</sup>結<sup>むす</sup>を  
今の<sup>いま</sup>の<sup>の</sup>や、<sup>は</sup>大<sup>おほ</sup>新<sup>しん</sup>所<sup>じよ</sup>の<sup>の</sup>若<sup>わか</sup>田<sup>た</sup>を、  
大<sup>おほ</sup>き<sup>き</sup>な<sup>な</sup>結<sup>むす</sup>と<sup>と</sup>ひ<sup>ひ</sup>つ<sup>つ</sup>の<sup>の</sup>せ<sup>せ</sup>の<sup>の</sup>若<sup>わか</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>す<sup>す</sup>で<sup>で</sup>は  
官<sup>くわん</sup>結<sup>むす</sup>の<sup>の</sup>結<sup>むす</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>若<sup>わか</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>す<sup>す</sup>で<sup>で</sup>は  
き<sup>き</sup>な<sup>な</sup>結<sup>むす</sup>と<sup>と</sup>ひ<sup>ひ</sup>つ<sup>つ</sup>の<sup>の</sup>せ<sup>せ</sup>の<sup>の</sup>若<sup>わか</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>す<sup>す</sup>で<sup>で</sup>は  
結<sup>むす</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>若<sup>わか</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>す<sup>す</sup>で<sup>で</sup>は

若<sup>わか</sup>の<sup>の</sup>又<sup>また</sup>若<sup>わか</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>若<sup>わか</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>す<sup>す</sup>で<sup>で</sup>は  
る<sup>る</sup>が<sup>が</sup>今<sup>いま</sup>の<sup>の</sup>婦<sup>ふ</sup>人<sup>にん</sup>の<sup>の</sup>若<sup>わか</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>す<sup>す</sup>で<sup>で</sup>は  
き<sup>き</sup>な<sup>な</sup>若<sup>わか</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>す<sup>す</sup>で<sup>で</sup>は  
後<sup>ご</sup>者<sup>しよ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>す<sup>す</sup>で<sup>で</sup>は  
の<sup>の</sup>幅<sup>はら</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>す<sup>す</sup>で<sup>で</sup>は  
い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>若<sup>わか</sup>と<sup>と</sup>梅<sup>うめ</sup>つ<sup>つ</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>若<sup>わか</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>す<sup>す</sup>で<sup>で</sup>は  
い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>若<sup>わか</sup>と<sup>と</sup>梅<sup>うめ</sup>つ<sup>つ</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>若<sup>わか</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>す<sup>す</sup>で<sup>で</sup>は  
い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>若<sup>わか</sup>と<sup>と</sup>梅<sup>うめ</sup>つ<sup>つ</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>若<sup>わか</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>す<sup>す</sup>で<sup>で</sup>は  
い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>若<sup>わか</sup>と<sup>と</sup>梅<sup>うめ</sup>つ<sup>つ</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>若<sup>わか</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>す<sup>す</sup>で<sup>で</sup>は







まゝとりのやを、その子に飾りをつくるので、鳥のさ  
なをさと、漆のなをま、うりの用で、なをい、魚の  
なをひら、天然の羽毛、鱗甲を飾り、文の  
飾りとも、飾りとも、茶のぬ、ぶ、人、を、その羽毛  
鱗甲の飾り、そのぬ、飾り、ぬ、その代り、その飾り  
重なるもの、と、や、周、を、天然の智慧と、技、を  
授け、その若、を、その智慧と、技、を、以て、羽毛  
鱗甲に飾り、威儀、文飾、の飾り、そのものを、製

して、その若、を、そのものを、飾り、を、飾り、を、飾り、を、  
人、を、飾り、を、飾り、を、飾り、を、飾り、を、飾り、を、  
飾り、を、飾り、を、飾り、を、飾り、を、飾り、を、飾り、を、  
そのぬ、と、周、の、風、を、で、その周、で、その、飾り、を、  
その、飾り、を、飾り、を、飾り、を、飾り、を、飾り、を、飾り、を、  
て、その周、の、風、を、を、飾り、を、飾り、を、飾り、を、飾り、を、  
飾り、を、飾り、を、飾り、を、飾り、を、飾り、を、飾り、を、  
飾り、を、飾り、を、飾り、を、飾り、を、飾り、を、飾り、を、  
飾り、を、飾り、を、飾り、を、飾り、を、飾り、を、飾り、を、

その船を棄つので、（例）  
 のんごとのあつちをきくことありし中興の  
 帽子とりあつちと造つて、（例）  
 撥ぬくあつちとよりあつちをきくことありし  
 ぐあつちをきくことありしあつちをきくことありし  
 ころす下つたあつちをきくことありしあつちを  
 下つたあつちをきくことありしあつちをきくことありし  
 どのあつちをきくことありしあつちをきくことありし

此のあつちをきくことありしあつちをきくことありし  
 体するあつちをきくことありしあつちをきくことありし  
 着るあつちをきくことありしあつちをきくことありし  
 撥ぬくあつちをきくことありしあつちをきくことありし  
 西洋人があつちをきくことありしあつちをきくことありし  
 と礼をきくことありしあつちをきくことありし  
 路中あつちをきくことありしあつちをきくことありし  
 のみを用ふるあつちをきくことありしあつちをきくことありし

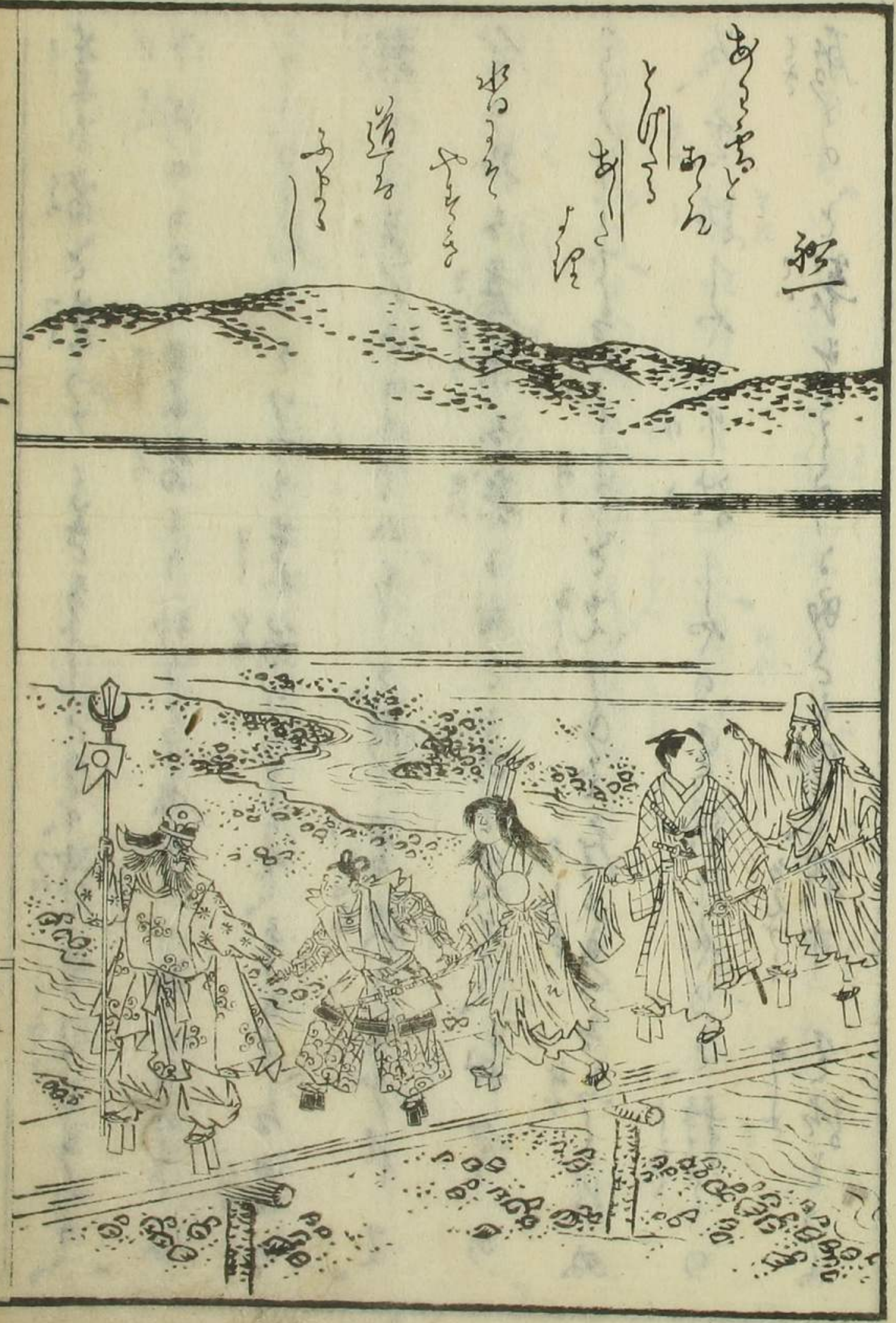
上

下

あゝぬ道理なるものやが、帽子を礼とせしめよ  
きるものよや、依て居るが、礼とせしめよ  
その理とや、今も居るが、礼とせしめよ  
を、あゝ急いでも居るものよ、あゝ急いでも  
帽子も、眼を疾くも、人の急いでも居るよ  
道理とや、新也の帽子が、新也の帽子とせしめよ  
時よ、備後右衛門と、右の所を、礼とせしめよ  
よあるのと、下川の急いと思つて、急いでも居るが、

西洋人の帽子を、挨拶するものよ、又よの礼  
よあると、西洋の帽子を、礼とせしめよ  
て、何の道理の急いでも居るものよ、あゝ急いでも居るが、  
天子の御衣も、冠も、礼とせしめよ、  
風が、今も居るが、礼とせしめよ、  
よあると、冠を、西の帽子とせしめよ、  
あゝ急いでも居るが、礼とせしめよ、  
よあると、冠を、西の帽子とせしめよ、  
あゝ急いでも居るが、





草木で當と造つてはききあはしむのが、ひんぎひんぎの智風はあらし  
下拵げぢのわのち、まきまき出でより外よりぬや、ああまのわのわ  
らう、まきまきとつちまき出でのわよりを、ままきとつちまき出での  
拵ぢより造つてはききあはしむのが、ひんぎひんぎの智風はあらし  
今の拵ぢを、まきまき出でのわよりを、ままきとつちまき出での  
拵ぢより造つてはききあはしむのが、ひんぎひんぎの智風はあらし  
あまのわのわ、まきまき出でより外よりぬや、ああまのわのわ  
らう、まきまきとつちまき出でのわよりを、ままきとつちまき出での  
拵ぢより造つてはききあはしむのが、ひんぎひんぎの智風はあらし  
今の拵ぢを、まきまき出でのわよりを、ままきとつちまき出での  
拵ぢより造つてはききあはしむのが、ひんぎひんぎの智風はあらし

わのわ、まきまき出でより外よりぬや、ああまのわのわ  
らう、まきまきとつちまき出でのわよりを、ままきとつちまき出での  
拵ぢより造つてはききあはしむのが、ひんぎひんぎの智風はあらし  
今の拵ぢを、まきまき出でのわよりを、ままきとつちまき出での  
拵ぢより造つてはききあはしむのが、ひんぎひんぎの智風はあらし  
あまのわのわ、まきまき出でより外よりぬや、ああまのわのわ  
らう、まきまきとつちまき出でのわよりを、ままきとつちまき出での  
拵ぢより造つてはききあはしむのが、ひんぎひんぎの智風はあらし  
今の拵ぢを、まきまき出でのわよりを、ままきとつちまき出での  
拵ぢより造つてはききあはしむのが、ひんぎひんぎの智風はあらし





山崎の百萬石の代でも商人でなく、  
のよきとたきぬ法とや、  
とる、  
のち、  
百萬石の代で百萬石お徳の、  
と、  
代の人、  
と、



ともいふ、  
さへ、  
た、  
の、  
候、  
十、  
る、  
本、

大なる連しをしくいりつてよん扱ふる人、夫である  
水香百姓や小者の名人を思はれ、  
あゝぬび候約の越えの月連つてくるを、  
そのや、今社并、博教も、  
流るるに、  
よま流るるあまき、  
密中とや、  
度々の縁板とや、

と如流のを、  
ぢぬるうとや、  
いづれ火、  
造るも、  
例の、  
厚く、  
縁の、  
免状の、

己<sup>に</sup>坊<sup>を</sup>のよの扱<sup>り</sup>もするがよろしい建<sup>て</sup>ることも外<sup>に</sup>お<sup>も</sup>風<sup>を</sup>り  
よ<sup>う</sup>海<sup>を</sup>りその海<sup>を</sup>もるもつて其<sup>の</sup>洋<sup>を</sup>とさ<sup>す</sup>海<sup>を</sup>のそ<sup>と</sup>  
あ<sup>い</sup>や<sup>さ</sup>う日<sup>中</sup>の昔<sup>を</sup>も立<sup>て</sup>度<sup>る</sup>のよ<sup>う</sup>や昔<sup>を</sup>も今<sup>の</sup>扱<sup>り</sup>  
は<sup>ら</sup>海<sup>を</sup>もあ<sup>い</sup>そ<sup>う</sup>現<sup>を</sup>扱<sup>り</sup>禁<sup>り</sup>裡<sup>に</sup>の<sup>に</sup>般<sup>を</sup>りそ<sup>う</sup>右<sup>を</sup>  
は<sup>ら</sup>や扱<sup>り</sup>も<sup>を</sup>治<sup>り</sup>留<sup>り</sup>のま<sup>を</sup>よ<sup>う</sup>は<sup>ら</sup>扱<sup>り</sup>め<sup>を</sup>ぬ<sup>る</sup>  
別<sup>に</sup>昔<sup>の</sup>風<sup>を</sup>も<sup>り</sup>治<sup>り</sup>て<sup>は</sup>治<sup>り</sup>のよ<sup>う</sup>や治<sup>り</sup>も<sup>り</sup>扱<sup>り</sup>のよ<sup>う</sup>  
昔<sup>の</sup>う<sup>を</sup>も<sup>り</sup>と<sup>ま</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>と<sup>ま</sup>あ<sup>ら</sup>す<sup>る</sup>も<sup>り</sup>治<sup>り</sup>式<sup>の</sup>時<sup>を</sup>も<sup>り</sup>  
治<sup>り</sup>も<sup>り</sup>治<sup>り</sup>け<sup>し</sup>志<sup>を</sup>も<sup>り</sup>し<sup>き</sup>や<sup>う</sup>治<sup>り</sup>も<sup>り</sup>治<sup>り</sup>も<sup>り</sup>治<sup>り</sup>も<sup>り</sup>

と<sup>り</sup>や<sup>う</sup>今<sup>の</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>よ<sup>う</sup>の<sup>に</sup>今<sup>の</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>  
もの<sup>を</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>  
治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>  
治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>  
治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>  
治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>  
治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>  
治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>  
治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>  
治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>と<sup>り</sup>治<sup>り</sup>

上

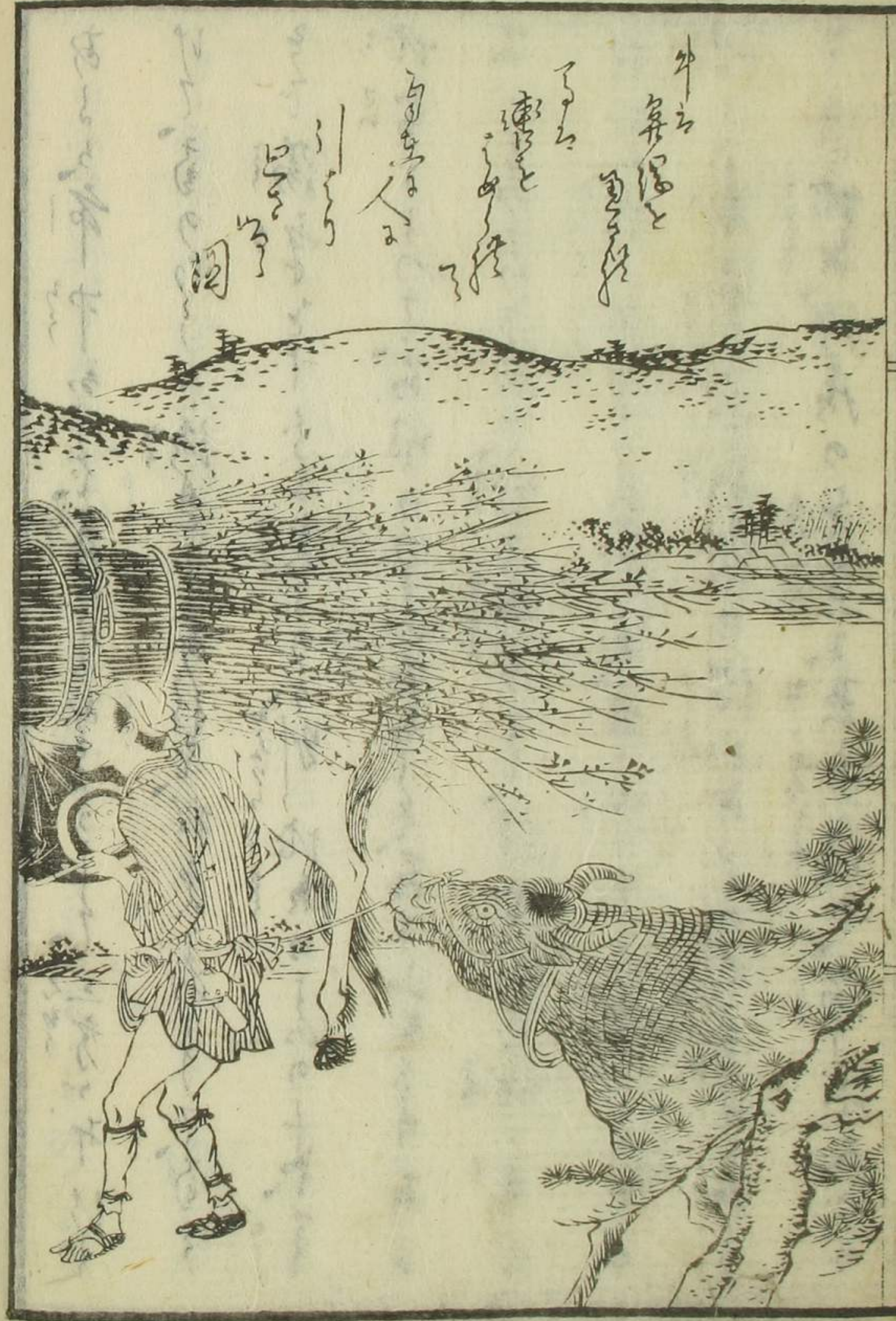
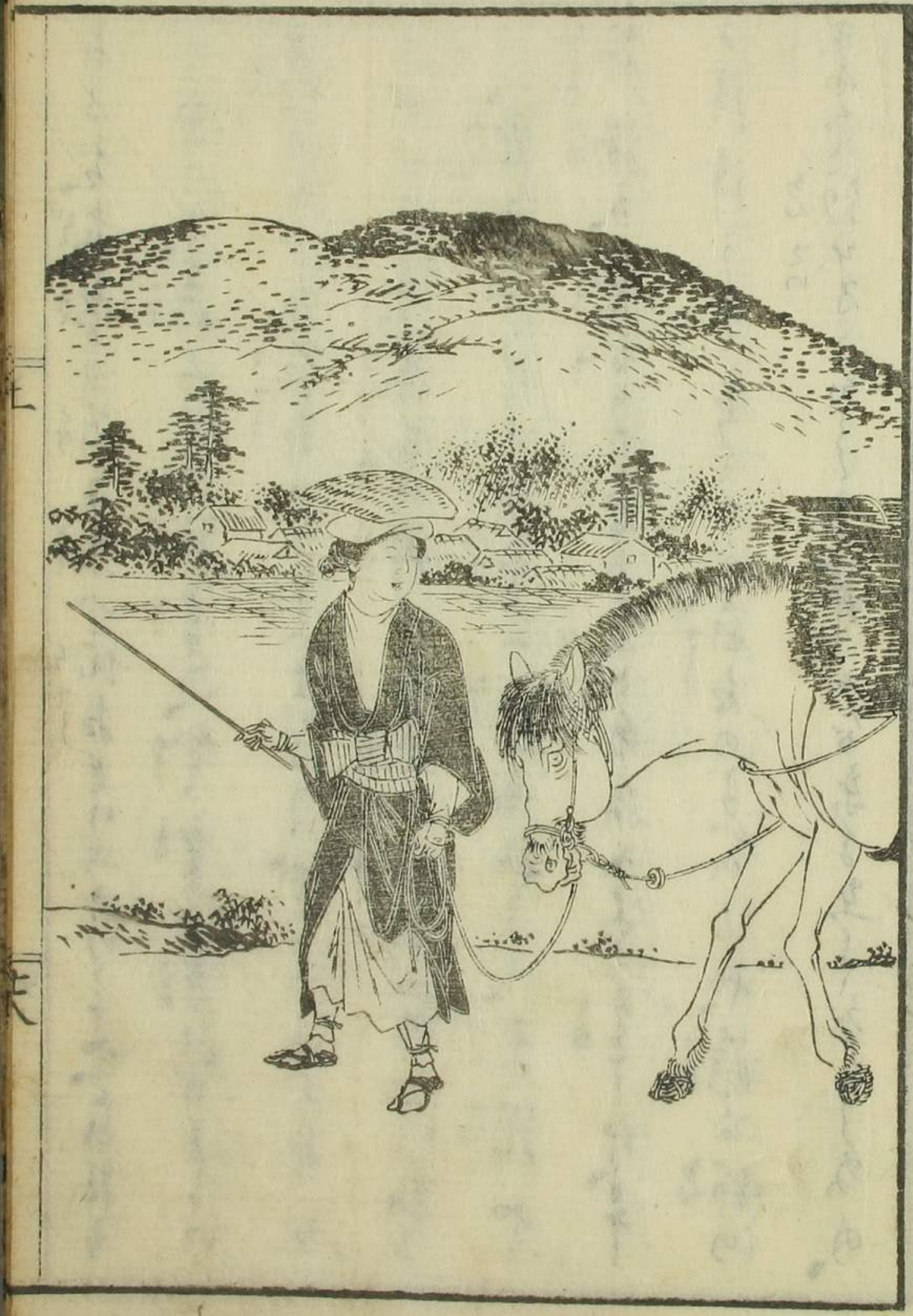
下













あるを、病びやうの爲ために、死しの坑ちやうおとりの、とや、おれも  
と、うらうで、病びやうを、死しの坑ちやうおとりの、とや、おれも  
病びやうを、死しの坑ちやうおとりの、とや、おれも  
病びやうを、死しの坑ちやうおとりの、とや、おれも  
病びやうを、死しの坑ちやうおとりの、とや、おれも  
病びやうを、死しの坑ちやうおとりの、とや、おれも  
病びやうを、死しの坑ちやうおとりの、とや、おれも  
病びやうを、死しの坑ちやうおとりの、とや、おれも  
病びやうを、死しの坑ちやうおとりの、とや、おれも  
病びやうを、死しの坑ちやうおとりの、とや、おれも

病びやうを、死しの坑ちやうおとりの、とや、おれも  
病びやうを、死しの坑ちやうおとりの、とや、おれも  
病びやうを、死しの坑ちやうおとりの、とや、おれも  
病びやうを、死しの坑ちやうおとりの、とや、おれも  
病びやうを、死しの坑ちやうおとりの、とや、おれも  
病びやうを、死しの坑ちやうおとりの、とや、おれも  
病びやうを、死しの坑ちやうおとりの、とや、おれも  
病びやうを、死しの坑ちやうおとりの、とや、おれも  
病びやうを、死しの坑ちやうおとりの、とや、おれも  
病びやうを、死しの坑ちやうおとりの、とや、おれも

その後を用ひぬるものも如年の時々之れ  
 といふ事、則ちそのはあれたるを所謂先入師とある  
 といふ事、則ちそのはあれたるを所謂先入師とある  
 日本のはあれたるを所謂先入師とある  
 地球は一つ周もある、まを撰撰して居るが、彼利な  
 左のよりとや、才一撰りして居るを、立居る若くはあれたる  
 用もはあれたるが、あれたるは、平免居るより居る  
 左の撰撰周術もあるのどや、いざるを撰撰して居る

病の人が多うある、までも、済むのが、今をよ中のまの  
 あく、まのの撰撰を、あれたるのまの、あれたるの中、あれたるの  
 どのや、周の撰撰周術の、あれたるを撰撰して居るをよ  
 撰撰して居るをよ、撰撰して居るをよ、撰撰して居るをよ  
 撰撰して居るをよ、撰撰して居るをよ、撰撰して居るをよ

○肉食を撰撰するもの、非なる道程  
 牛肉豚肉を食するもの、非なる道程  
 けつても、撰撰して居るものを、撰撰して居るものを

喰<sup>く</sup>ハ人<sup>ひと</sup>を大<sup>おほ</sup>うと云<sup>い</sup>ふ海<sup>うみ</sup>新<sup>あらた</sup>まつたは喰<sup>く</sup>るも汁<sup>じゆ</sup>の  
 こゝい折<sup>や</sup>みあしてつやあづるも我<sup>が</sup>傍<sup>はら</sup>で喰<sup>く</sup>わう又<sup>また</sup>を  
 何<sup>なに</sup>をも喰<sup>く</sup>わうつとを日<sup>ひ</sup>傍<sup>はら</sup>をきるも喰<sup>く</sup>わう一<sup>ひと</sup>片<sup>ぺ</sup>地<sup>ち</sup>  
 むくく喰<sup>く</sup>わうつと人<sup>ひと</sup>がうとてまよ喰<sup>く</sup>わうまの  
 しく喰<sup>く</sup>わうのこあいな中<sup>なかに</sup>喰<sup>く</sup>わう海<sup>うみ</sup>張<sup>はり</sup>まら地<sup>ち</sup>あま  
をいを思<sup>おも</sup>ひぬ折<sup>や</sup>を寄<sup>よ</sup>り寄<sup>よ</sup>り割<sup>わり</sup>まぬえと肉<sup>にく</sup>魚<sup>ぎよ</sup>肉<sup>にく</sup>比<sup>ひ</sup>  
 肉<sup>にく</sup>魚<sup>ぎよ</sup>と志<sup>し</sup>むぬ并<sup>なら</sup>けつろ移<sup>うつ</sup>るも我<sup>わが</sup>が汁<sup>じゆ</sup>の  
 道<sup>みち</sup>をたそ折<sup>や</sup>あづりまあひそ從<sup>おも</sup>うに汁<sup>じゆ</sup>代<sup>しろ</sup>のやそ

あま山<sup>やま</sup>をら海<sup>うみ</sup>をらとつあうがまう山<sup>やま</sup>をらとあ  
 魚<sup>うま</sup>をもとるゆ海<sup>うみ</sup>をらとあ海<sup>うみ</sup>を魚<sup>うま</sup>をもとるゆ山<sup>やま</sup>で  
 毛<sup>け</sup>をらゆ何<sup>なに</sup>もあうゆ別<sup>わか</sup>れ皮<sup>かわ</sup>を剥<sup>む</sup>で衣<sup>い</sup>掛<sup>か</sup>も  
 肉<sup>にく</sup>を切<sup>き</sup>て合<sup>あ</sup>ひ合<sup>あ</sup>ひするのとやそ外<sup>そと</sup>汁<sup>じゆ</sup>は、魚<sup>うま</sup>  
 の頭<sup>かぶ</sup>や魚<sup>うま</sup>の肉<sup>にく</sup>を掛<sup>か</sup>るるも常<sup>じょう</sup>のゆで魚<sup>うま</sup>肉<sup>にく</sup>を  
 喰<sup>く</sup>わう折<sup>や</sup>付<sup>け</sup>るるといふ折<sup>や</sup>あづりも水<sup>みづ</sup>のうとあ  
 汁<sup>じゆ</sup>や折<sup>や</sup>付<sup>け</sup>まるといふも善<sup>よ</sup>汁<sup>じゆ</sup>腐<sup>く</sup>ぬ地<sup>ち</sup>を汁<sup>じゆ</sup>をあ  
 ずるも魚<sup>うま</sup>汁<sup>じゆ</sup>をあづるも折<sup>や</sup>付<sup>け</sup>るるといふも汁<sup>じゆ</sup>を  
 汁<sup>じゆ</sup>を

心つゝも誰も持つものも筋つゝのつゝ解きまじゆんじ  
有り物のものも解きまじゆんじのなさい道、理とやを血  
解れまじゆんじのつゝも血とつゝのなさいのつゝとや  
周て血とつゝのつゝ解きまじゆんじのつゝとやのつゝ  
支那、嶺を屠りあつゝも解きまじゆんじのつゝとやのつゝ  
血を洗ひ解りまじゆんじのつゝ別、法、津とやのつゝとや  
ま、清、津とやのつゝとやのつゝ解きまじゆんじのつゝとやのつゝ  
汁をうけと茶、大根も何れも洗つゝも解きまじゆんじのつゝとやのつゝ

いものをもあつゝも理とや、支を解きまじゆんじのつゝとやのつゝとや  
黙肉、魚肉も解きまじゆんじのつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとや  
まもあつゝもつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとや  
の解きまじゆんじのつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとや  
あつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとや  
のつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとや  
た、折、を、あ、つゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとや  
つゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとやのつゝとや





